

〈鴻門の会〉

やっぱり剣舞は相手がおらぬ事にはのお！どれ、わしが相手つかわそう！

剣舞に見せかけてかならず劉邦を殺せ！

暗殺命令

なんのこたかな？

項伯 項莊

おむ！邪魔立てするな！

劉邦 掩護

え～そあ？でも、お前に惚れられてもな～

首席

項羽 范增

目配せ！目配せ！目配せ！

玉玦

いよっ！大統領！私が女なら惚れてますよ！

劉邦

「ああ豎子、與に謀るに足らず！項王の天下を奪う者は必ず沛公なり！」

「あやっはダメじゃ！決断力がなさすぎる！」

嗚呼！

范增

つまらないものですがお近づきの印にこれをお納めください。

張良

「壮士である！」

「壮士である！」

この者には酒を取らせや！

豚の肩肉も与えや！

項羽

1 2 3 4

A B C D

「沛公が左司馬、曹無傷が之を言えり！」

ね？ゆるちて？

裏切者は曹無傷だったのか！あとでフツ殺す！

ま！いいだろ！俺もお前んトコの曹無傷がヘンなこと言わなまや端からおめしを疑つこともなかつたんだよ！

項羽 劉邦

206.12 BC

天幕

北 南 東 西

殺りなされ！

まずいなあ…この状況を打開できる者といえば…

次席

張良

永席

張良

劉邦軍 左司馬 樊噲

兄貴は！？兄貴は大丈夫か！？中はどうなってる！？

ヤバイよ…今にも殺されそう…あんたが行ってなんとかがしてやっつて！

さ！今のうちにとっとと帰りたい！

「大行は細謹を顧みず、大礼は小談を辞せず！」

でもまだ挨拶が…

こちとら殺されかかってのにそんなもん要らん！

んじゃ、あとのことはよろしく！

目眚 盡裂

頭髮 上指

一升の酒

生豚肩肉

酒

帯刀 帶盾

樊噲

劉邦

1 2 3 4 5

第1章 天下統一

第2章 天下動乱

第3章 霸王誕生

第4章 楚漢戦争(前期)

第5章 楚漢戦争(後期)

こうして翌日、劉邦は張良・樊噲以下わずか百余騎のみを従えて「死地」へと向かいました。

これぞ、かの有名な「鴻門の会」です。

しかし、項羽陣営は誅殺する気満々でしたから、樊噲以下の者はすべて陣外で待たされ、幕内に入ることが許されたのは張良ただひとり。

劉邦は項羽と対するや、まずは深く頭を下げ、謝罪(A-5)。

——将軍と臣(*01)は、ともに秦を討つために立ち上がった同志であるのに、なにやら小人(*02)があることないこと触れ回ったようで、

そのために将軍と臣との信頼関係にヒビが入ってしまったことは残念でなりません。

このとき項羽26歳。

まだ自分のような豎子に、年齢50を数えた劉邦がへこへこ頭を下げて命乞いをする姿を目の当たりにし、気位の高さにかけては並ぶ者とてない項羽は思いました。

(俺が逆の立場なら、こんな卑屈な態度、死んでもできぬ！)

こんな矜持の欠片も持たぬ小人が、天下などそんな途方もない野心など抱くはずもないし、たとえ抱いたところでどうにでもなるまい。

范増の考えすぎだ。

劉邦の媚びた態度に項羽はすっかり溜飲を下げ、つい口を滑らせてしまいました。

「いやいや、余とてその方の左司馬・曹無傷がおかしなことを言わねば、

その方を疑うようなことなど、端からなかったのだ。」(A-4/5)

この時点では、まだ劉邦陣営は裏切者を特定できていなかったのですが、ここで思いがけず項羽の口からポロッと裏切者の名が出たため、曹無傷はこの会

(*01) 劉邦は最初の挨拶で、項羽を「将軍」と呼び、自らを「臣」とへりくだることで、暗に「すでにこちらは白旗を降っていますよ」とアピールをしています。

(*02) つまらない、取るに足らない人。鼠輩。ここでは曹無傷のこと。

(*03) 劉邦が鴻門に連れてきた「百余騎」の中にもし曹無傷がいたら、「え？ ちょっと待って？ それ言っちゃったら俺、殺されるじゃん？」という感じだったことでしょう。

盟ののちただちに処刑されることになりました(*03)(A-5)。

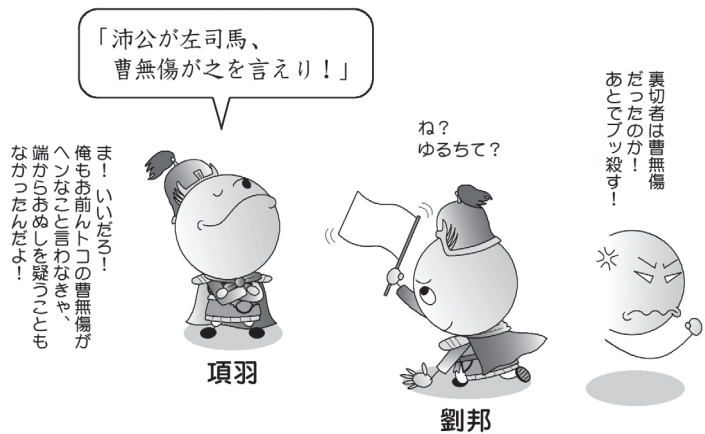
さて、幕内に入ると、出入口(東)から見て奥正面(西)の上座には項羽と項伯(B/C-2)が並び坐り、右側(北)には范増(B-3)、左側(南)に劉邦(C-3)、そして手前(東)の下座に張良(B/C-3/4)が坐ります。

当時の中国では、方角的には北と西が「上座」、位置的には出入口から遠い所が「上座」(*04)でしたから、項羽陣が「上座」を独占し、劉邦陣が「下座」に付かされたことで、まずは座る位置で上下関係を再確認させられたということの意味します。

もっともこの劉邦という人物は、自分より上の者に対しては足を舐めることも厭わぬ男ですから、たかが下座に座らされる如き、屁とも思わなかったことでしょう。

それどころか劉邦は宴会中、終始項羽をおだてあげ、上機嫌にさせます。

こうして和解の宴は滞りなく進みましたが、滞りなく進んでもらっては困るのが范増。



(*04) 太陽は東から昇り、南に頂点を迎えます。したがって、日光を正面から浴びる東面(西)・南面(北)が「上座」と見做されます。出入口から遠いのが「上座」とされるのは、君主というものは宮殿の奥に座し、門からやってくる家臣と体面するものだから。ちなみに、このときの席次の順位は「西(項羽)→北(范増)→南(劉邦)→東(張良)」となります。

彼は焦れて、項羽に目配せして玉玦(*05)(B-2/3)を掲げ示します。

「早く決せ(殺せ)！」

ところが、項羽はもうすっかり上機嫌となり、殺す気が失せてしまっていたため、范增の目配せに気づきながらこれを見て見ぬふり。

三度「玦」を示しても動かない項羽に業を煮やして席を外し、項莊(*06)を呼びつけました。

「將軍(項羽)は情け深いお方で、どうしても手を下すことができぬようだ。

そこでおぬし、今から酒宴に行ってお祝いの言葉とともに剣舞を舞え。

そして、隙を見て沛公を殺せ！ よいか、失敗は許されぬ。

失敗すれば、我ら郎党、早晚沛公の虜となるのだぞ！」

こうして項莊(A-1/2)が余興の許しを請い、剣舞を始めたものの、項羽の隣に座っていた項伯は彼の舞に敏感に“殺意”を感じとります。

(さては項莊め、殺る気だな!?)

項伯は席を立つと、陽気に言い放ちます。

「いやはや、やはり剣舞というものは相手がおらぬと盛り上がりませぬな！

どれ、ひとつ私がお相手しよう！」(A-1)

こうして項莊が劉邦を殺そうとする、項伯が身を張ってこれを邪魔する。傍から見れば、項莊・項伯兩名によるふつうの剣舞にしか見えなかったかもしれませんが、水面下では2人の壮絶な駆け引きが展開されます。

これを見ていた張良も、場の異様な雰囲気を感じたものの、文官の自分ではどうしようもなく、この場を打開するためには“あの者”の助けがいる！と思いい、「厠へ」と席を外して軍門に向かいました。

陣門のところで気を揉んで待っていた樊噲(B/C-5)が、張良(B/C-4/5)の姿を認めて詰め寄ります。

(*05)玉(翡翠)のできた腰帯の飾り。「玦」は「決」に通じ、「決せ(殺せ)」という意味。

(*06)『鴻門の会』のこのシーンでのみ登場し、その前にもその後にもまったく登場しない人物のため、彼に関する詳細はまったく不明。よく「項羽の従弟」と書いてある書も散見されますが、それとて『史記』ではなく、それより1000年も経った唐の時代(8世紀)に書かれた『史記正義』(史記の解説書)に拠るもので、真偽のほどははなはだ怪しい。

「あ！ 子房(張良)殿！ 兄者の様子はどうか!?!」

——まずい状況だ。今にも殺されそうだ。

この状況、私ではどうにもならぬ。そなた行ってくれぬか。

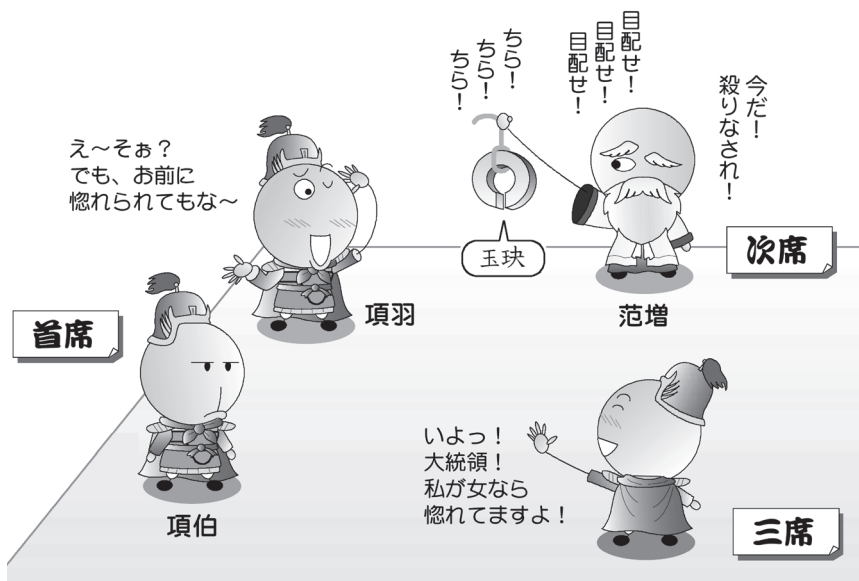
それを聞いた樊噲は、居ても立ってもいられず陣中に入ろうとしますが、当然門兵に止められます。

「ここを通ること、罷りならぬ！」

「ええい、やかましいわ！ どけっ！」

樊噲は門兵を盾で突き飛ばして幕内に闖入すると、そこはまさに剣舞の真っ最中。

一同の視線が一斉に樊噲に集まり、見れば、剣を帯び盾を持った大男が「頭髪は上を指し、目皆は盡く裂く(*07)」という鬼の形相で項羽を睨みつけて



(*07)『史記』の「頭髪上指、目皆尽裂」の部分で、「髪は逆立ち、目尻は裂けていた」の意。ここから、怒りを表すのに「頭髪上指」とか「皆裂髪指」という四字熟語が生まれました。前巻『世界史劇場 春秋戦国と始皇帝の誕生』で紹介した蘭相如の「怒髪衝天」の樊噲版。

とぼり
帷幕のところで仁王立ちしています(D-3/4)。

これにはこうう項羽もとっさにつか片膝を立て、剣の柄に手をかけて身構えましたが、
そのちん闖入者は怒ってはいるようであるけれども、飛びかかってくる気配はありません。

「今日はお祝いの席とのこと！」

私も酒の一杯でもご相伴あずかに与りたいと参上あずかいたした！」

——あの者は何者だ？

そうこうう項羽に問われてちようりよう張良が答えます。

「沛公はいの参乗さんじよう(護衛官ボディガード)にて、樊噲はんかいと申す者にございます。」

こうう項羽はこの男の出で立ち・迫力はじように感心して告げます。

——壮士(*08)である！(D-2/3)

酒が所望こんだそうだ、誰かこの者に一献けん授けよ！

ところが、そこに出てきたのは1斗(*09)入りの大さかつき盃さかつきに並々の酒。

普通のこんなもの呑み干せませんが、命はんかいを棄ててかかっている樊噲はんかいは、これを
一気呑み。

——見事！誰か、この者にていけん屍肩(*10)を取らせよ！

すると今度は、豚の肩からもぎ取ったままの一塊なまの生肉なまが出されます。

酒にしろ、豚肉にしろ、樊噲はんかいに対するいや厭いやがらせであると同時に、この男の度
量たいりやうを試そうとしたのでしょう。

とはいえ、生肉はさすがに樊噲はんかいといえど噛み切れませんから、彼は盾を裏返
していけんに置いて、その上に屍肩ていけんを置き、剣を抜いてこれで肉塊を切り取り、ナマの
まま豪快に頬ばります。

「豚の生肉は初めて食べますが、オツなものですな！」

その豪快な喰いっぷりに、さすがのこうう項羽もけお気圧され、もう一度言います。

——壮士である。

(*08)「血気盛んな男」の意。

(*09)約2リットル。日本でいうなら、一升瓶(1800ml)まるごと1本分でも余るほど。

中国酒は日本酒やウィスキーよりアルコール度数が高く、そんなものを1升も一気はんかいに呑ん
だらぶつうイッパツで急性アル中になります。

もう一杯いくか？

これに樊噲はんかいは答えて曰く。

「某それがしは、ここに参上した時点で端から命は棄てており申す！」

どうして酒の1杯や2杯、断りましょう！

されど、その前に將軍(こうう)項羽にはひとこと申し上げたい！」

——申せ。

「さきにかい懷王は『まさきに関中に入った者を関中王とする』と約し、

はい沛公(劉邦)が先んじて関中に入り申した。

にもかかわらず、沛公はこれを私わたくしすることなく、宮室も宝物殿も封鎖し、

軍を灊上はじように戻し、これを將軍に無傷でお渡しするべく、

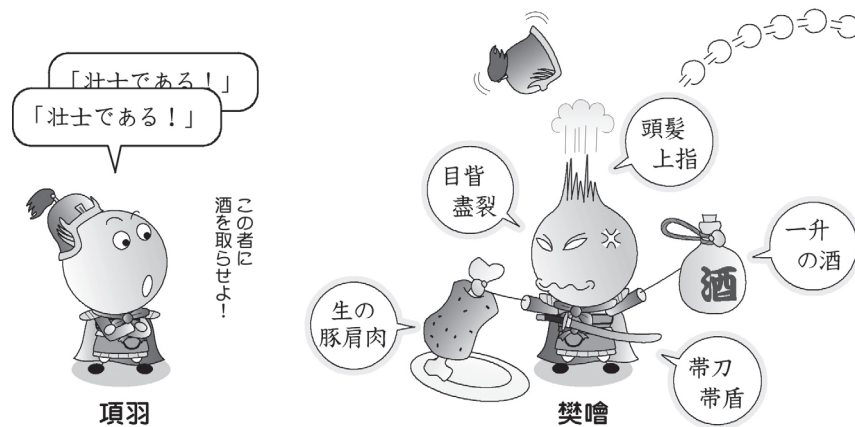
將軍がお越しになるのを待っておりました。

関を守らせたのも、咸陽かんようを空けておく以上、

盗賊どもが侵入することのないようにしたまでのこと！

そのような有功の人(りゆうほう)(劉邦)をお褒めになるどころか、

小人ざんの讒言を真に受けて殺そうとするとは、何たる所業か！」



(*10)豚の肩肉。いくぶん固めで筋の多い部位なのでたいていミンチにするか柔らかくなるまで
煮込んでから食すことの多い部位。

これには項羽も返す言葉がなく、「まあ坐れ」というのが精一杯。
 場はシラけ、気まずい空気が漂う中で、たまたま劉邦は「ちょっと廁へ」と
 席を外すと、参乗（護衛官）の樊噲も付き従います。

「兄者！

このまま逃げちまいな！」

——いや、しかし將軍（項羽）にお暇の挨拶もしておらんぞ？

それは礼を欠くだろう？

「あのなあ、兄者。

今、俺たちは“俎板の鯉”なんだぜ？

向こうがこっちを殺そうとしてるってのに、礼もへったくれもねえですぜ！

昔から言うじゃありませんか、

『大行は細謹を顧みず、大礼は小讓を辞せず（*11）』（D-4/5）と。

とっとと逃げましょうぜ！」

——ううむ。

そうは言ってもなあ。

そこへ張良もやってきます。

——おお、子房よ。ちょうどよいところに来てくれた。

樊噲が「このまま帰れ！」というのだが、そなたはどう思う？

「樊噲殿の申すとおりです。

早々にここをお立ち去りください。

あとのことは私にお任せを。」

さて、幕内では劉邦の帰りが遅いので使い（*12）をやって探しに行かせまし
 たが、そのときにはすでに逃げ出したあとで、張良が詫びに入ります。

「沛公は酔いがひどく、ご挨拶もままならぬほどに酩酊しておりましたほどに

（*11）「大事を成し遂げようするとき、小さなことにこだわってはならない。基本的な礼節が守られていれば、些細な非礼など問題にならない」という意味。「大事の前の小事」。後半部分は最近の「マナー講師」に聞かせたい言葉。

（*12）じつはこのときの使いこそ、かの「陳平」。詳しくは本文にて。

（*13）白色の玉（翡翠）でできた璧（穴の空いた円盤状の祭器）。

て、帰らせてましてございます。

つきましては、出しそびれておりました贈り物を献上いたしたく、
 將軍には白璧（*13）一對、范增殿には玉斗（*14）一對をここにお持ちいたし
 ました。お納めくださいませ。」

項羽はこれを受け取りました（*15）が、怒りの収まらない范增は玉斗を地面
 に叩きつけ、これを剣で突いて破壊します（D-1）。

——亜父！ 何とする！？

范增は慟哭します。

「唉、豎子、與に謀るに足らず！（*16）

項王（項羽）の天下を奪わんとする者は、かならず沛公なり！」

この事件が歴史的に大きな転換点となり、以降の歴史を大きく変えること
 になったのでした。

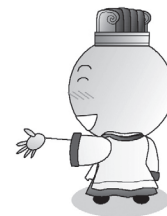
「ああ豎子、與に謀るに足らず！
 項王の天下を奪う者は必ず沛公なり！」

嗚呼！
 あやつはタメじゃー！
 決断力がなさすぎるー！



范增

つまらないものですが
 お近づきの印に
 これをお納めください。



張良

（*14）玉（翡翠）でできた酒を酌むための柄杓。

（*15）挨拶もなしに帰ったことを許したという意味。

（*16）「こわっばめ！ とてもこんなやつと大事を語ることなどできめわ！」の意。
 ちなみにこの「豎子」とは誰のことを指すかは本幕コラムをご覧ください。